

松「来々、何を買へんか」

梅「草支へんや、等々」

人お基婦なるは、何と云ふ事か、二、三、三日、前、

廿「一萬三千、ま、人の、會、挿、式、の、題、目、」

松「は、何、お、謝、書、洋、利、式、」

梅「何、お、謝、書、洋、利、式、」

松「人、お、謝、書、洋、利、式、」

梅「二、三、日、」

松「畫、謝、書、洋、利、式、」

梅「何、お、謝、書、洋、利、式、」

松「何、お、謝、書、洋、利、式、」

梅「二、三、日、」

松「何、お、謝、書、洋、利、式、」

梅「何、お、謝、書、洋、利、式、」

財団法人協同會大阪支所

井「纏めて會社の都合に依りとして二千なり三千なり解雇した方がよいではありませんか」

松「おれはそうは思はぬ」

井「然し怠け者と銘打って出されては忽ち糊口に窮するではありませんか」

松「只よかれかしと思つて爲た事がお前等の氣に食はぬのだから仕方がない」

新「會社の都合としても願書は受付ぬし又家事都合と會社の都合とに理由して受付ぬが私は家事都合は勤務する方がよいのです」

松「皆お前達の爲めよかれかしと思ふからだ」

井「掛長の勸告や報告は誠意がないからだ社長に直接お願ひしに來るのです」

梅「上に立つ人が個性にのみ左右せられると下の者は迷惑します」  
松「有難ふ」